



# 目次

---

- 改訂情報
- はじめに
  - 本書の目的
  - 前提条件
    - セキュリティ機能の前提条件
  - 対象読者
  - 用語解説
- インストール前に
  - 全体のインストール作業の流れ
  - 必要なライセンス
  - インストール前に必要な確認事項
  - 正常に動作しない環境
  - 注意事項
- インストール・環境設定
  - PDFメイクアップ のインストール
  - 環境変数の設定
  - プロジェクトの作成とモジュールの選択
  - 設定ファイルの編集
- アンインストール
  - 作業前に...
  - IM-PDFCoordinator for Accel Platform の削除
  - 環境変数の削除
  - PDFメイクアップ のアンインストール
- 既存環境のバージョンアップ
  - warファイルの再デプロイ
  - PDFメイクアップ の再インストール
  - 環境変数の設定
  - 設定ファイルの編集
- 【補足】 intra-mart e Builder for Accel Platform との連携方法
  - 環境構築手順
  - intra-mart e Builder for Accel Platform 用の環境変数設定

## 改訂情報

変更年月日	変更内容
2013-10-11	初版
2014-04-01	第2版 ドキュメント全般 Windows Server 2012 向けの記述を追加しました。
2015-07-01	第3版 設定ファイルの編集の記述を追加しました。
2016-08-01	第4版 「【補足】 intra-mart e Builder for Accel Platform との連携方法」の記述を追加しました。
2016-12-01	第5版 下記を追加・削除しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 「はじめに」→「前提条件」の記述を追加しました。</li> <li>▪ 「正常に動作しない環境」からシンクライアントの制限を削除しました。</li> </ul>
2017-04-01	第6版 「既存環境のバージョンアップ」の記述を追加しました。
2018-04-01	第7版 以下を追加・修正しました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 「PDFメイクアップのインストール」を修正しました。</li> <li>▪ 「はじめに」を修正しました。</li> <li>▪ 「既存環境のバージョンアップ」を修正しました。</li> </ul>
2018-08-01	第8版 下記に対応をいたしました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 「はじめに：前提条件」で「PDFメイクアップ インストール・ガイド」の文書プロパティをクリアしました。</li> <li>▪ 「はじめに：前提条件」で「セキュリティ機能の動作条件」の文書プロパティをクリアしました。</li> <li>▪ 「はじめに：前提条件」で「対応PDFファイルにつきまして」の文書プロパティをクリアしました。</li> </ul>
2018-12-01	第9版 下記に対応をいたしました。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 「PDFメイクアップのインストール」の章で「OSを再起動してください。」と明記しました。</li> <li>▪ 「既存環境のバージョンアップ」の章で「OSを再起動してください。」と明記しました。</li> <li>▪ 表記のゆれを訂正しました。</li> </ul>

## 目次

- 本書の目的
- 前提条件
  - セキュリティ機能の前提条件
- 対象読者
- 用語解説

## 本書の目的

本書では IM-PDFCoordinator for Accel Platform のセットアップ手順について説明します。

## 前提条件

1. intra-mart Accel Platform サーバで運用される場合を前提にしております。
2. 以下のドキュメントに記載されているシステム要件を満たしている必要があります。
  - 「IM-PDFCoordinator for Accel Platform リリースノート」
  - 「[PDFメイクアップ インストール・ガイド](#)」
  - 「[セキュリティ機能の動作条件](#)」
  - 「[対応PDFファイルにつきまして](#)」
  - 「[タブレットや携帯端末において弊社製品から作成されるPDFファイルを表示する際の注意点](#)」
3. 重要 注意事項
  - PDFファイルのオープンパスワードとセキュリティパスワードは、同一にしないでください。
  - パスワードを同一にしますとPDFファイルを開いた状態で、PDFファイルの編集加工が可能となってしまいます。このため、セキュリティ用のスクリプト等が解除可能になります。

## セキュリティ機能の前提条件

1. Adobe Reader上の設定条件
  - 「環境設定」→「JavaScript」→「Acrobat JavaScript を有効にする」をONにする必要があります。
  - メニュー構成は、Adobe Readerのバージョンに依存するため、ご利用中のバージョンに合わせて適宜読み替えてください。
2. 「IM-QuickBinder ダウンロードプロテクション」と同等の機能ではありません。
  - PDFファイルのダウンロードは出来ます。
  - 画面のキャプチャは出来ます。
  - PDFファイルのみが対象です。
  - PDFファイルにパスワードが付与されており、パスワードがわからない場合、セキュリティを付与することはできません。
  - 前提として、Adobe Reader/Acrobatが適切な環境設定で動いている必要があります。
  - URL制限の機能を利用する場合、Adobe Reader/Acrobatの設定にて「JavaScript許可」「インターネットブラウザにてPDFをブラウザで表示するにチェック（URL指定の場合）」が必要です。
3. 保存場所制限の場合の文書管理注意事項
  - URL指定機能は、実際にAdobe Readerが認識するURLで判断します。必ず想定している環境（Adobe ReaderおよびIE等）にて事前確認をお願いします。
  - URL制限の仕組みでは、「まったく同じURLを構築された場合見えてしまう」というリスクがあります。このため、URLを外部に知らせないことが重要です。エラー画面等にPDFファイルに設定されているURL表示することは避けてください。また、できる限り可変のURL（URLにハッシュ値を含める等...）を指定することを推奨します。ファイルをユニークな場所にコピー⇒そこでのみ見えるURLを指定して処理⇒ユーザーに見せる⇒一定時間が経過した後は上記のファイルを削除する等の運用を推奨します。

4. セキュリティ付のPDFファイルの作成のタイミングと、サムネール処理との関係  
セキュリティ付与されたPDFファイルのサムネールは作成できません。  
このため、サムネールの作成が必要なシステムと同居する場合には、セキュリティ付のPDFファイルを作成するタイミングに注意してください。
- ・ 事前に作成
    - 事前にすべてのPDFファイルに先にセキュリティを付与します。この方法は速度面でメリットがあります。
  - ・ 閲覧時にその都度作成
    - 閲覧要望ごとにセキュリティを付与します。
    - 事前に作成してしまったほうが、ユーザとしてストレスが発生しませんが、その場合はPDFファイルにセキュリティがかかっておりサムネールが作成できませんので注意してください。
- 閲覧制限付PDFファイルは制限（抜け道）のあるセキュリティ機能です。| 個人情報等の100%情報漏えいさせたくないような場合には向いていません。そのような場合はPDFファイルのオープンパスワードを使用してください。| あくまでセキュリティが強化されるという認識でご利用ください。
5. サポートするPDFファイルの種類
- サポート対象のPDFファイルの種類についての詳細は、添付資料を参照してください。
  - 添付資料のPDFファイルでも、別途有償にてサポート可能な場合があります。
6. セキュリティ強度について
- ファイルを開くためのパスワード（以下、オープンパスワード）のセキュリティは、ファイルの中身を暗号化するため強固です。
    - ファイルの中身が暗号化されますので、オープンパスワードがわからない限り閲覧することはできません。
    - 非常に重要な文書に関しては、オープンパスワードを併用することを推奨します。
  - 総当たり攻撃を考慮した場合、強度はパスワード長さに依存します。20文字以上にすることで総当たり攻撃にも耐える強度が確保されますが、パスワードの長さは現実の運用を考えてご判断ください。
  - セキュリティパスワードの強度は、オープンパスワードより低いです。これは、セキュリティパスワードはファイルの中身を暗号化している訳ではなく、印刷/編集等の利用可否をフラグで制御していることに起因します。
  - PDFファイルの規格上のセキュリティと、JavaScriptで強制的に稼働するセキュリティとで制限が異なります。
    - パターンとしては以下の3種類（JavaScriptで2つに分岐）があります。
      - 1. オープンパスワード/セキュリティパスワード/JavaScript
      - 2. オープンパスワード/セキュリティパスワード
      - 3. セキュリティパスワード/JavaScript
    - オープンパスワードとセキュリティパスワードに同じ文字列を指定しないでください。
    - JavaScriptのみのセキュリティでは、JavaScriptの中身が見えてしまうため、セキュリティパスワードとの併用を推奨します。
    - セキュリティパスワードをユーザに周知する運用も、JavaScriptの中身が見えてしまうため推奨しません。
7. 有効期限の設定
- 有効期限の設定は、年月日で指定可能です。時間は指定できません。
  - 時間を指定した場合、時間の指定は無視されます。
  - 2013/05/30 ~2013/05/30 と指定した場合、2013/05/30中はPDFを開くことができます。
  - 期限の日付は、PDFファイルを開いているマシンの日付が適用されます。

## 対象読者

以下の利用者を対象としています。

- intra-mart Accel Platform サーバでの IM-PDFCoordinator for Accel Platform のセットアップを行われる方

## 用語解説

- Resin をインストールしたディレクトリを %RESIN\_HOME% と略します。
- Apache HTTP Server をインストールしたディレクトリを %APACHE\_HOME% と略します。
- Storage として使用するディレクトリを %PUBLIC\_STORAGE\_PATH% と略します。
- Webサーバ利用時の静的コンテンツを配置するディレクトリを %WEB\_PATH% と略します。
- PDFメイクアップ をインストールしたディレクトリを %PDFMAKEUP% と略します。

#### 目次

- 全体のインストール作業の流れ
- 必要なライセンス
- インストール前に必要な確認事項
- 正常に動作しない環境
- 注意事項

## 全体のインストール作業の流れ

IM-PDFCoordinator for Accel Platform は、以下の手順でインストール作業を進めます。

1. intra-mart Accel Platform サーバ 1台 で運用する場合
  1. PDFメイクアップ のインストール
  2. 環境変数の設定
  3. warファイルのデプロイ
  4. jarファイルの配置
  5. 設定ファイルの配置
  6. 設定ファイルの編集
  7. サンプルの実行
2. intra-mart Accel Platform サーバ 複数台（分散環境） で運用する場合  
上記、「intra-mart Accel Platform サーバ 1台 で運用する場合」 の手順を、サーバ台数分 実施してください。
  - いずれの場合も、付属のサンプルプログラムが正常に動作することを確認し、インストール作業は完了です。
  - APサーバが Linux/UNIX の場合は、個別に営業までお問合せください。

## 必要なライセンス

IM-PDFCoordinator for Accel Platform をご利用いただくには、以下のライセンスが必要になります。  
製品のインストールの際にライセンスを入力してください。  
ライセンスが未入力の状態では動作しませんのでご注意ください。

- PDFメイクアップ のライセンス

## インストール前に必要な確認事項

インストール前に、必ず以下を設定・確認してください。

- OSの最新のパッチをインストールしてください。
- 必ずインストールするマシン自体に管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。ネットワーク管理者権限（Network Administrator）があっても、そのマシン自体の管理者権限（Administrator）がないことも考えられます。

## 正常に動作しない環境

- 正常に動作しない環境については、各製品マニュアルを参照ください。

## 注意事項

以下を事前にご確認ください。

- ウイルスソフトによっては、ウイルスチェック時にファイルを掴むものがあります。PDF処理に影響がでる場合は、作業フォルダをウイルスチェックの対象から外す必要があります。
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform は、Windowsマシン上に構築する必要があります。APサーバが、Linux / UNIXマシンの場合は、個別に営業までお問い合わせください。



IM-PDFCoordinator for Accel Platform のセットアップに必要な以下のインストールおよび設定を行います。

### 目次

- PDFメイクアップ のインストール
- 環境変数の設定
- プロジェクトの作成とモジュールの選択
- 設定ファイルの編集

intra-mart Accel Platform サーバでの作業内容を説明します。

intra-mart Accel Platform サーバを複数台 用意する場合は、すべての intra-mart Accel Platform に以下の作業を実施してください。

## PDFメイクアップ のインストール

1. intra-mart Accel Platform サーバに管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. PDFメイクアップ のインストーラを起動して、マニュアルに沿ってインストールしてください。  
PDFメイクアップ には、32bit版 / 64bit版 がございます。  
JDKのビット数に合わせて、PDFメイクアップ の32bit版 / 64bit版インストーラを選択してください。  
32bit版、64bit版でインストーラが異なりますので注意してください。
3. OSを再起動してください。

### コラム

Windows7 / Windows Server 2008 (以降のOS含む) では、セキュリティが強化されています。結果、"Program Files" 以下にインストールされたプログラムのファイルアクセスが制限されるケースがあります。PDFメイクアップ のインストール先に、"Program Files"は避けてください。

(インストール先の例) C:\tool\PDFMakeup

### コラム

インストールパスには、バージョン番号を含めないことを推奨します。

インストールパスには環境変数を設定するため、バージョン番号をパスに含めた場合、環境変数の再設定が必要となる場合があります。

## 環境変数の設定

1. intra-mart Accel Platform サーバに管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 以下の環境変数を設定します。  
通常であればシステムの環境変数に設定いただければ問題ありません。  
サーバ上に、PDFオートコンバータEX のインストールフォルダ%/bin が既に指定してされている場合は、それよりも前に設定してください。

環境変数名	設定内容
PATH	%PDFMAKEUP%/bin

3. 以下を設定してください。

intra-mart Accel Platform サーバの共通libフォルダ (%RESIN\_HOME%/libが一般的) に <makeup.jar> ファイルを配置します。

<makeup.jar> ファイルは、imart フォルダにあります。

場所	ファイル名
%RESIN_HOME%/lib	makeup.jar

4. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。

```
> ypdfmulc
```

5. 以下の画面が表示されれば環境変数の設定は完了です。

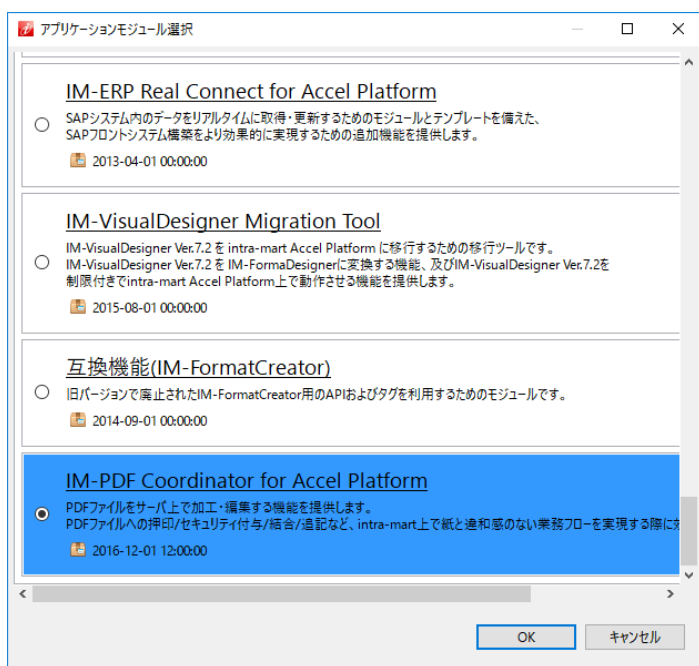


### コラム

環境変数設定後は、必ず Resin をプロセスごと再起動してください。

## プロジェクトの作成とモジュールの選択

- 「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」にしたがって、プロジェクトを用意します。  
プロジェクトの作業手順の詳細については、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」を参照ください。
- IM-Juggling で利用するアプリケーションを選択する際に、「IM-PDFCoordinator for Accel Platform」を指定します。
- WARファイルを生成しデプロイします。  
WARファイルの生成及びデプロイの手順については、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」を参照してください。



### 注意

既に IM-PDFCoordinator for Accel Platform を導入中で、IM-PDFCoordinator for Accel Platform 8.0.6 以降にバージョンアップする場合には、IM-Juggling の ユーザモジュールから IM-PDFCoordinator for Accel Platform を削除してください。

**コラム**

アプリケーションは後で追加することもできます。追加する方法は、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」-「アプリケーションの追加」を参照してください。

## 設定ファイルの編集

1. intra-mart Accel Platform に管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
2. <pdfprotection.xml> ファイルを環境に合わせて修正してください。
3. 修正後 intra-mart Accel Platform を再起動してください。
4. 以上で作業は完了です。

ファイル	場所
pdfprotection.xml	%RESIN_HOME%/webapps/{アプリケーション名}/WEB-INF/classes

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE properties SYSTEM "http://java.sun.com/dtd/properties.dtd">
<properties>
  <comment></comment>

  <!-- 一時フォルダ（未設定の場合は環境変数TMPまたはTEMPを使用） -->
  <entry key="tempdir"></entry>

  <!-- PDF編集モード -->
  <!-- URLセキュリティ、または、期間セキュリティを付与する場合に、フォーム、注釈、リンクを削除するかどうかを指定しま
す。未指定の場合は0で初期化されます。 -->
  <!-- 0：フォーム、注釈、リンクを削除する -->
  <!-- 1：フォーム、注釈、リンクを削除しない -->
  <entry key="editmode">0</entry>
</properties>
```

intra-mart Accel Platform での作業内容を説明します。

intra-mart Accel Platform を複数台 ある場合は、各 intra-mart Accel Platform に以下の作業を実施してください。

### 目次

- 作業前に...
- IM-PDFCoordinator for Accel Platform の削除
- 環境変数の削除
- PDFメイクアップ のアンインストール

## 作業前に...

Resinが停止されている必要があります。

## IM-PDFCoordinator for Accel Platform の削除

1. IM-Jugglingの「アプリケーション」タブで、「IM-PDFCoordinator for Accel Platform」のチェックマークを外して、warファイルを作成します。
2. 作成したwarファイルを、Resinでデプロイします。



### コラム

手順の詳細は、「intra-mart Accel Platform セットアップガイド」-「intra-mart Accel Platform 構成ファイルの作成」および、「intra-mart Accel Platform の起動・停止」を参照してください。

## 環境変数の削除

1. intra-mart Accel Platform サーバに管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. 以下の環境変数を削除します。

環境変数名	設定内容
PATH	%PDFMAKEUP%/bin

3. 以下のファイルを削除します。

場所	ファイル名
%RESIN_HOME%/lib	makeup.jar



### コラム

複数台の intra-mart Accel Platform を利用している場合は、すべての intra-mart Accel Platform に対して実施してください。



### 注意

上記作業には、Resinが停止している必要があります。

## PDFメイクアップ のアンインストール

1. intra-mart Accel Platform サーバに管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
2. コントロールパネルからプログラムの追加と削除を開き、PDFメイクアップをアンインストールします。

3. 以上で作業は完了です。

intra-mart Accel Platform サーバでの作業内容を説明します。

intra-mart Accel Platform サーバを複数台 用意する場合は、すべての intra-mart Accel Platform に以下の作業を実施してください。

#### 目次

- warファイルの再デプロイ
- PDFメイクアップ の再インストール
- 環境変数の設定
- 設定ファイルの編集

## warファイルの再デプロイ

- IM-Juggling で作成した warファイル を再デプロイします。

```
%RESIN_HOME%/webapps
```

## PDFメイクアップ の再インストール

- intra-mart Accel Platform サーバに管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
- コントロールパネルのプログラムの追加と削除から、インストール済みの PDFメイクアップ をアンインストールしてください。
- PDFメイクアップ のインストーラを起動して、マニュアルに沿ってインストールしてください。  
PDFメイクアップ には、32bit版 / 64bit版 がございます。  
JDKのビット数に合わせて、PDFメイクアップ の32bit版 / 64bit版インストーラを選択してください。  
32bit版、64bit版でインストーラが異なりますので注意してください。
- OSを再起動してください。

### コラム

Windows7 / Windows Server 2008 (以降のOS含む) では、セキュリティが強化されております。結果、“Program Files” 以下にインストールされたプログラムのファイルアクセスが制限されるケースあります。PDFメイクアップ のインストール先に、“Program Files”は避けてください。

(インストール先の例) C:\tool\PDFMakeup

### コラム

インストールパスには、バージョン番号を含めないことを推奨します。  
インストールパスには環境変数を設定するため、バージョン番号をパスに含めた場合、環境変数の再設定が必要となる場合があります。

## 環境変数の設定

- intra-mart Accel Platform サーバに管理者権限 (Administrator) のあるユーザでログインしてください。
- 以下の環境変数を設定します。  
通常であればシステムの環境変数に設定いただければ問題ありません。  
サーバ上に、PDFオートコンバータEX のインストールフォルダ%/bin が既に指定してされている場合は、それよりも前に設定してください。

環境変数名	設定内容
PATH	%PDFMAKEUP%/bin

3. 以下を設定してください。

intra-mart Accel Platform サーバの共通libフォルダ（%RESIN\_HOME%/libが一般的）に <makeup.jar> ファイルを配置します。

<makeup.jar> ファイルは、imart フォルダにあります。

場所	ファイル名
%RESIN_HOME%/lib	makeup.jar

4. コマンドプロンプトを起動し、以下のコマンドを実行してください。

```
> ypdfmulc
```

5. 以下の画面が表示されれば環境変数の設定は完了です。



### コラム

環境変数設定後は、必ず Resin をプロセスごと再起動してください。

## 設定ファイルの編集

- intra-mart Accel Platform に管理者権限（Administrator）のあるユーザでログインしてください。
- <pdfprotection.xml> ファイルを環境に合わせて修正してください。
- 修正後 intra-mart Accel Platform を再起動してください。
- 以上で作業は完了です。

ファイル	場所
pdfprotection.xml	%RESIN_HOME%/webapps/{アプリケーション名}/WEB-INF/classes

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE properties SYSTEM "http://java.sun.com/dtd/properties.dtd">
<properties>
  <comment></comment>

  <!-- 一時フォルダ（未設定の場合は環境変数TMPまたはTEMPを使用） -->
  <entry key="tempdir"></entry>

  <!-- PDF編集モード -->
  <!-- URLセキュリティ、または、期間セキュリティを付与する場合に、フォーム、注釈、リンクを削除するかどうかを指定します。未指定の場合は0で初期化されます。 -->
  <!-- 0：フォーム、注釈、リンクを削除する -->
  <!-- 1：フォーム、注釈、リンクを削除しない -->
  <entry key="editmode">0</entry>
</properties>
```

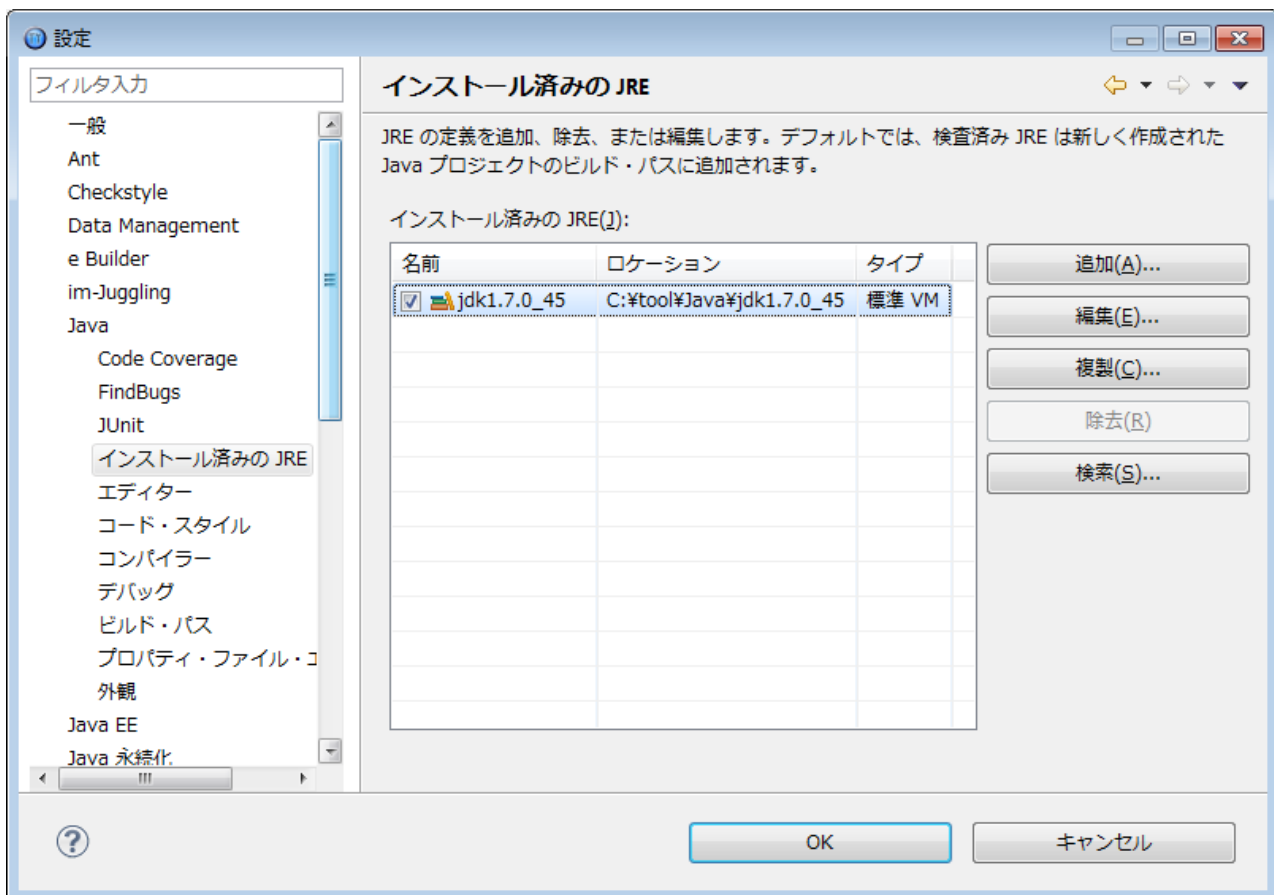
intra-mart e Builder for Accel Platform と IM-PDFCoordinator for Accel Platform を連携して開発ができます。  
サポート環境は、intra-mart e Builder for Accel Platform のサポート環境に準じます。  
インストール手順は、ご利用環境にあわせて適宜読み替えて作業してください。

## 環境構築手順

1. インストールマニュアルの手順に従って、intra-mart e Builder for Accel Platform をインストールします。
2. 上記で構築した intra-mart e Builder for Accel Platform 環境に、IM-PDFCoordinator for Accel Platform をインストールします（マニュアルの手順に沿ってインストールをお願いいたします）。具体的には、以下の3点の作業が必要です。  
PDFメイクアップ のインストール  
IM-PDFCoordinator for Accel Platform のインストール  
環境設定
3. intra-mart e Builder for Accel Platform の環境設定をします。intra-mart e Builder for Accel Platform は、OSに設定されている環境変数を認識しない場合があり、IM-PDFCoordinator for Accel Platform を起動した際に、UnsatisfiedLinkErrorが発生することがあります。その場合は、intra-mart e Builder for Accel Platform 本体に環境変数を設定します。

## intra-mart e Builder for Accel Platform 用の環境変数設定

4. intra-mart e Builder for Accel Platform を起動します。
5. ウィンドウ→設定→Java→インストール済みのJRE を開きます。

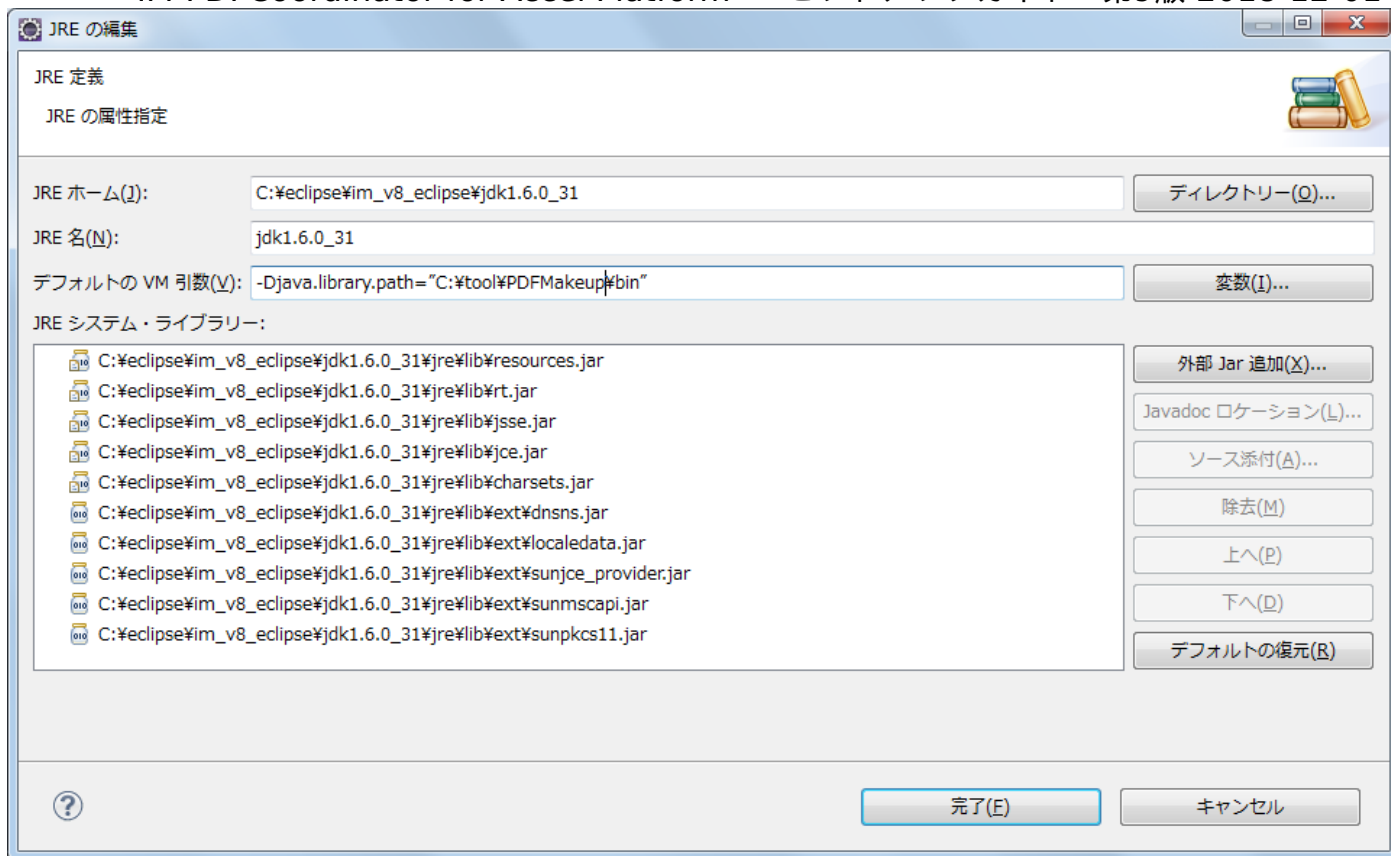


6. 利用しているJDKを選択して、編集ボタンをクリックします。
7. デフォルトのVM引数 に PDFメイクアップ のインストール先bin フォルダ を指定します。

```
-Djava.library.path="C:\tool\PDFMakeup\bin"
```

8. 入力して、終了ボタンをクリックします。





9. 再度 intra-mart e Builder for Accel Platform からデバッグを実行ください。IM-PDFCoordinator for Accel Platform 付属のサンプルプログラムが正常に動作すれば環境構築は完了です。

### コラム

環境変数設定後は、必ず Resin をプロセスごと再起動してください。